

# 華人経済 経営研究

～彼れを知らず己れを知らざれば戦う毎に必ず殆うし～

## 日華・日中文化比較

### 公私概念の違い

中国本土からアジア地域、そして世界にまで活動範囲を拡大するチャイニーズ。彼らのビジネスに対する考え方や習慣は日本人からすると異質にして独特で、理解しづらいものだといわれている。チャイニーズを総合的に「華人」ととらえ、彼らの多様な伝統文化と長い歴史から導き出された経営思想、心理と行動を体系的に分析し、華人圏や中国への進出に伴う総合的なノウハウを学び合う関西日本香港協会のみなさんの研究の成果を紹介する。



【馬場正修（ばばまさのぶ）さん】  
関西日本香港協会理事、同協会華人経済・経営研究部 主任研究員。  
1972年関西学院大学経済学部卒。三井物産出身。繊維貿易畑を歩み、台北・山東省青島勤務など中華圏に8年在勤。2003年4月より5年間ジェトロ大阪本部貿易・投資アドバイザーを務める。2007年4月（株）貿易人を設立。現在、ジェトロ神戸・高知・金沢ほか、香港貿易発展局等の貿易・投資アドバイザー。大阪商工会議所 委員、中国ビジネス特別委員会 委員、中国経済・経営学会 会員。関西和僑会事務局長。  
【日本香港協会全国連合会】<http://www.jhks.gr.jp/>  
【関西和僑会】<http://kansai-wakyo.com/>

### 日本人の公と私

の場・領域に属することになる。会社への忠誠心は揺らぎ、一方、他人が形成する関係網の存在には寛容なのである。

「公」は、その関係網の外の「私」を排除するものであるが、一方、他人が形成する関係網の存在には寛容なのである。

「合股」とは、明代末期宗族制下に出現した共同出資事業形態のこと。お互いに熟知し、信頼し合える血縁・地縁・知友らが、共同して均等に分割された股Ⅱ株を一定額ずつ出資・持ち合い、一定期間営む事業形態（中井英基）。利益は股Ⅱ株の持ち合い比率に応じて分配する。労役による出資も可能。「面子・信用」を媒介にした自己人領域にある「私」がつながることに

の平等な「私」の関与、普通選挙を主張する新しい中華的民主の発露である。日本政府による尖閣諸島の国有化は、「公」支配により「私」を排除し地域の安定を計ろうとするものであるが、中国における国有化は、「私」の集合としての「公」・国家が、一人の私的所有を「公」による共同所有へ変更することへの反発であり、加えて西欧近代の国家観念・国境概念に捉われて許せないのである。中国における近代化の更なる深化と西欧近代の超克なくして解決の展望はない。

### 華人・中国人の公と私

「公」は、「公」に關与するときは、「私」を捨てなければならぬ。卑近な例では、公共のものは私物化してはならない。公私は峻別しなければならぬ。江戸期の藩を例に取ると藩主・藩公に使える家臣は、世襲で身分を保証されると共に藩主に忠誠を誓い、己を捨てて仕えなければならぬ。公私混同は倫理として許されない。

これまで論じてきたように、中華社会では、「面子」を媒介とした「私」と「公」のつながり、「関係（グワシ）」、そしてその連鎖・「関係ネットワーク」が、社会的結合の基底にある。「私」を含み「私」を共同の輪につなげた公、「つながりの公」（溝口）である。

「関係」は、血縁・地縁・善縁を加えた「五縁」をよりどころに形成される。また、「人情」を介して赤の他人同士が深い「関係」を形成する場合もある。結拜（義）兄弟である。この「自己人」・「義兄弟」のつながりによって特殊な利害を共有する秘密結社「幫（パ）」も形成される。

これら「つながりの公」の中にあつては、安心、高信用、公平、平等、自己犠牲・無償の奉仕、無限責任の世界である。そして、これを破ったときは、厳しい制裁がある。命を失うこともあり、集団からの追放もある（オストラシズム）。

※本稿は、華人研における故溝口雄三氏、濱下武志氏、園田茂人氏等の著作の研究を基に筆者がまとめた個人的見解である。（このシリーズは2カ月に3回掲載します）

本紙2013年10月4日号の斎藤 治氏の「CMSで学ぶ」でも解説された公私概念の違いを考える。日中は、「一衣帯水、同文同種」とよく言われるが、これは幻想に過ぎない。「一衣帯水」は、かつてアジアにはなかった近代のNation Statesの国境概念により、近くて親和性の高い地域から、紛争の地域に変質している。

尖閣を見よ！ 南シナ海も同様。「同文同種」であれば、かくもさまざまな交流上の摩擦に悩むことはないではないか。そこには、文明・文化の相異があることを直視しなければならぬ。

この支配組織・藩、為政集団と言う一つの共同

証するものであり、その故に愛社精神も公私のけじめも醸成され、組織への忠誠が保証されたのである。今

この秋の香港における反政府デモは、国家を「私」の集合としての共同の「公」と捉え、共産党による私物化を受容できない、国家へ

の平等な「私」の関与、普通選挙を主張する新しい中華的民主の発露である。日本政府による尖閣諸島の国有化は、「公」支配により「私」を排除し地域の安定を計ろうとするものであるが、中国における国有化は、「私」の集合としての「公」・国家が、一人の私的所有を「公」による共同所有へ変更することへの反発であり、加えて西欧近代の国家観念・国境概念に捉われて許せないのである。中国における近代化の更なる深化と西欧近代の超克なくして解決の展望はない。

（このシリーズは2カ月に3回掲載します）